

特集 2 日本の乳がん検診の現状と課題



うえまつ たかよし

植松 孝悦

静岡県立静岡がんセンター

乳腺画像診断科／生理検査科 部長

要旨

我が国に対策型乳がん検診マンモグラフィが導入されてすでに24年が経過しているが、日本人女性に対するマンモグラフィ検診の死亡率減少効果のエビデンスは存在しない。欧米のランダム化比較試験データによる乳癌死亡率減少効果を外的妥当性の検討なしに外挿し、その科学的根拠とする論理は時代遅れで間違った方策である。

我が国の次世代乳がん検診は、ブレスト・アウェアネスを土台とし、乳房超音波検査や合成マンモグラフィを使用する乳房トモシンセシスなどの新しい検診モダリティを使用したリスク層別化乳がん検診を導入することで、死亡率減少効果のある、受診率の高い、公正な乳がん検診に変貌する可能性がある。

キーワード

乳がん検診, マンモグラフィ, 高濃度乳房, ブレスト・アウェアネス, リスク層別化乳がん検診, 公正な乳がん検診